

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 キチジ

学名 *Sebastolobus macrochir*

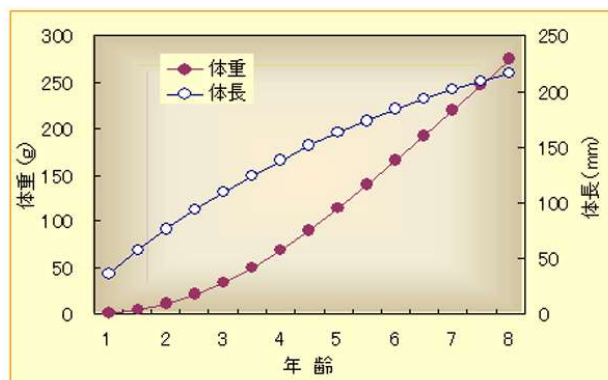
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特徴

寿命： 20歳程度
成熟開始年齢： 6歳（北部）、4歳（南部）
産卵期・産卵場： 1～4月
索餌期・索餌場： 周年、水深350～1,300mの深海域
食性： エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類
捕食者： マダラ、アブラガレイ



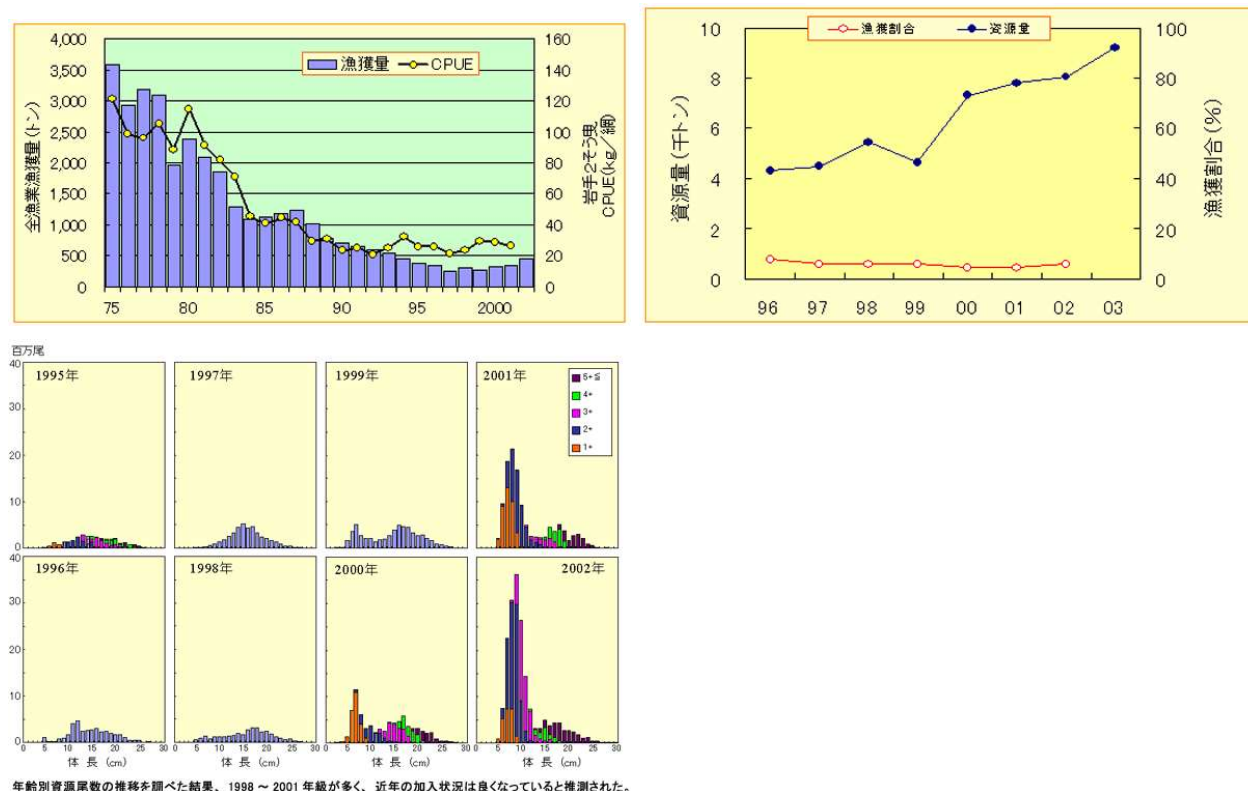
漁業の特徴

太平洋北部では、キチジは沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業、底延縄、底刺網で漁獲される。現在、沖合底びき網漁業による漁獲がほとんどであるが、その量は非常に少ない。沖合底びき網漁業の漁期は禁漁期を除く9～6月である。近年、沖底船は9～12月にスルメイカを狙って操業することが多く、スルメイカより深場に生息するキチジに対する漁獲圧は以前より低くなっていると考えられる。

漁獲の動向

全漁業種類による漁獲量は1975～1985年にかけて急激に減少し、1997年まで減少の一途をたどった。しかし、近年、若干の増加傾向が認められる。沖合底びき網漁業の漁獲量をみると、1970年代には2,000トン前後と高い漁獲量を維持していたが、その後、減少傾向を示し、1997年には過去最低の229トンとなった。2002年（暫定値）には沖合

底びき網漁業で371トン、小型底びき網漁業で14トンの水揚げがあり、全漁業種類合計で455トンの水揚げがみられた。

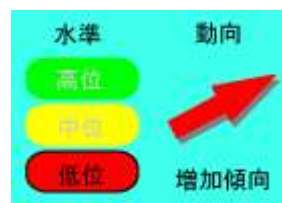


資源評価法

秋季にトロール網による底魚類資源量調査を実施し（水深150～900m、計75地点）、面積－密度法により資源量を推定した。調査海域は青森県～茨城県沖で、太平洋北部のキチジの分布範囲をカバーできている。曳航式深海ビデオカメラとトロール曳網調査により、本調査で用いているトロール網の身網による採集効率（網の前にいた魚が網に入る比率を示す係数）を0.3として資源量の計算を行った。

資源状態

2003年1月時点での資源量は9,230トンと2002年より増加し、資源量は2000年以降4年続けて増加した。また、年齢別資源尾数の変化によれば、体長5～7cm程度の1才魚が1999年から2002年まで連続して出現した。これらの年級は1998～2001年級であり、近年の加入状況は良くなっていると推測された。漁獲量およびCPUEの長期的な推移から、資源水準が低位にあることは明らかである。また、資源の動向は増加傾向と考えられる。



管理方策

成長が遅いことも合わせて考えた場合、資源量が増加傾向にあるものの、漁獲を維持しつつ、資源量を過去の水準にまで増加させるのは困難である。漁獲を抑えることにより資源量を徐々に増加させることを資源管理目標とし、現在の漁獲係数Fを8割に削減した時の漁獲量をABCとして算出した。

2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
----------	------	-----	------

A B C limit	590トン	0.8Fcurrent	0.061	5.5%
A B C target	480トン	0.8・	0.049	4.5%
		0.8Fcurrent		

F値は各年齢の単純平均

漁獲割合＝ABC／資源重量

ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- キチジ資源は低水準に留まっているが、増加傾向が認められる
- 近年の加入状況が改善し、今後、漁獲対象資源が増加すると推測される

資源管理方策のまとめ

- 資源回復のためには、漁獲水準の引き下げが必要
- 体長10cm以下の若齢魚を保護していくことが資源管理の上で重要

資源評価は毎年更新されます。